

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

記述・論述・描図・選択・マーク

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

設問数の変化はないが、例年通り解答時間に対して問題量は多かった。

出題の特徴や昨年との変更点

設問の多くは空所補充で、一部に問形式を含む。受験生にとって目新しい問題を、誘導に従って解いていかなければならない。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	空所補充 ・問形式 (記述・ 描図)	力学 (単振動)	物理	棒に取り付けられたおもりの振り子運動と、それらをばねで連結した場合の運動を扱った問題であった。誘導に従って確実に計算をしていくこと。	標準
II	空所補充 ・問形式 (記述・ 選択・描 図)	電磁気 (電磁場内の 荷電粒子の運 動)	物理	電磁場中の荷電粒子の問題である。問題文の誘導に従っていけば、ローレンツ力による等速円運動の組み合わせで解くことができる。丁寧な計算により、確実に得点したい。	標準
III	空所補充 ・問形式 (記述・ 選択)	波動 (光ファイバ ー)	物理	光ファイバー内を光が全反射しながら進むための条件だけでなく、さらにファイバー内の現象を詳しく考察した問題であった。問題文を深く読み込んで、定量的な計算を進めなければならない。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 基本事項を正確に把握する。
2. 題意を正しく把握するための読解力を養う。
3. 図を用いて状況設定を正しく把握する習慣を身につける。
4. 正確で迅速な計算力を養う。